

疾患特異的B細胞シグナル恒常的活性化機構の解明による 難治性B細胞リンパ腫の治療開発研究



講師（学内）
塚本 拓

研究指導
教授 黒田 純也

① 共同研究・産学連携への意気込み

B細胞性リンパ腫は造血器腫瘍の最大疾患群です。その難治病態の克服を目的に、未知の疾患特異的な分子制御を解明し、**その診断法の確立と、制御戦略の開発による難治病態の克服**を目指します。

② 想定される連携先・移転先

新規の分子診断法やオミックス解析法、遺伝子・染色体診断法、ならびに分子標的治療開発を目指す企業・アカデミアと連携し、数年以内の臨床実装を目指します。

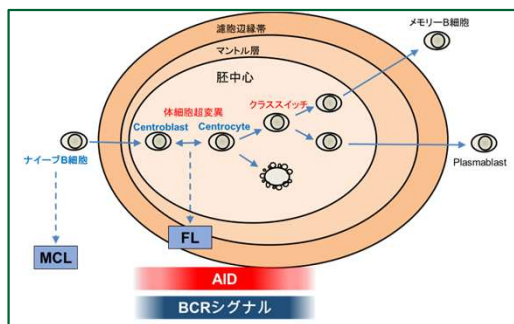
キーワード

濾胞性リンパ腫(FL)・マント細胞リンパ腫(MCL)・AID・B細胞受容体(BCR)シグナル

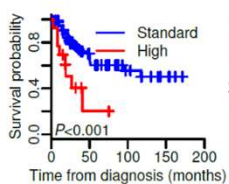
研究内容

現有治療で完治が困難な難治性B細胞リンパ腫の克服を目指し、基礎・臨床両面の知見に基づき、以下のテーマで研究を行っています。

- (1) 予後不良濾胞性リンパ腫における**AIDのoff-target効果の果たす役割**
- (2) 濾胞性リンパ腫の**発生起源による新規分類法の確立と治療戦略の開発**
- (3) マント細胞リンパ腫における**mir17-92クラスターによるBCRシグナル活性化機序**の解明
- (4) マント細胞リンパ腫における**Galectin-9を介したBCRシグナル活性化機序**の解明



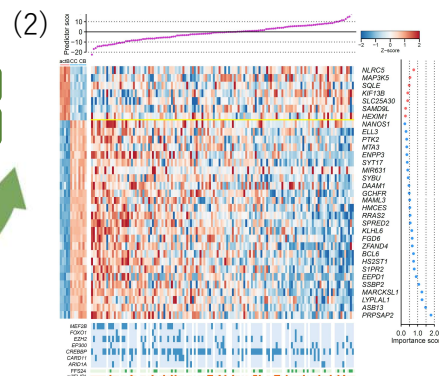
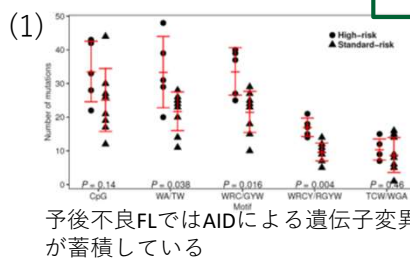
臨床研究



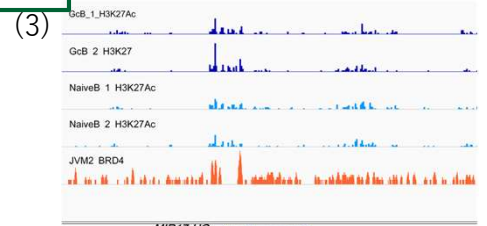
濾胞性リンパ腫
マント細胞リンパ腫



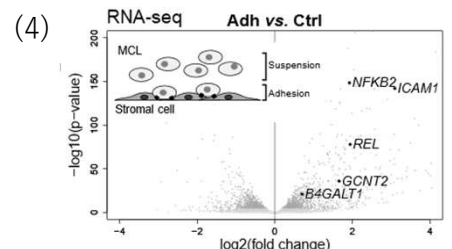
基礎研究



FLの中には、活性化B細胞に類似した発現を示す予後不良群が存在する



MCLでは正常ナイーブB細胞に比べエピジェネティックレベルで腫瘍形成性miRNAの発現が上昇している



MCLは微小環境依存的に糖鎖修飾異常を来しBCRシグナルが異常活性化する